

## ( 4 ) 経営健全化の促進

### ア 経営改善による財政基盤の強化

県内の水道事業体の経営状況を見ると、平成15年度において収益的収支の経常収支が赤字となったのは、1水道用水供給事業体、22水道事業体及び2簡易水道事業体の計25事業体で、全事業体のうち約4割の事業体が赤字となっています。また、累積欠損金を抱える事業体は、平成15年度決算において25事業体と同じく約4割の事業体となっています。なお、給水人口規模の小さい事業体ほど累積欠損金を抱える事業体の割合が高い傾向となっています。

また、収益的収支における県・市町村一般会計等からの繰入金の比率は、水道事業体で5.3%(全国平均2.0%、全国第6位。なお、県営水道を除いた場合10.6%)、水道用水供給事業体で4.3%(全国平均4.5%、全国第19位)となっており、給水収益のみでは経営が成り立たず、独立採算制の上では例外的な一般会計からの繰入金や県補助金等に依存せざるを得ない状況が見られます。

このように、県内の多くの水道事業体において極めて厳しい経営状況となっていますが、経営を圧迫する主な要因としては、高額な給水原価が挙げられます。

有収水量1m<sup>3</sup>当たりのコストである給水原価は、全国平均で180.34円/m<sup>3</sup>ですが、千葉県では235.95円/m<sup>3</sup>と、全国平均よりも30.8%高くなっています【グラフ-9】。

給水原価が高い要因としては、千葉県は県内水源が乏しいにも関わらず約560万人もの給水人口を抱え、この需要を満たすには利根川上流における水源開発に依存せざるを得ず、後発の水源開発に係る負担と、それを給水するための施設整備の負担が特に高額となっていることが挙げられます。県平均で水道事業と水道用水供給事業を一体化しつつ給水原価の内訳を見ると、約54.5%が減価償却費と支払利息で水源開発や施設整備に要した投資的経費の後年度負担が占めています【グラフ-11】。

末端給水事業体から見ると、給水原価の中で、特に水道用水供給事業からの受水費が高い傾向にあり、千葉県の平均は60.23円/m<sup>3</sup>(給水原価のうち25.5%)と全国平均の30.82円(給水原価のうち17.1%)の約2倍となっています。

給水原価中の受水費が高い原因を水道用水供給事業体の給水原価から推察すると、減価償却費・支払利息を合わせた投資的経費の割合が高くなっています。これは千葉県が広域的な水源開発と用水供給に水を依存しており、その水源確保と施設整備の負担が経営を圧迫する要因との前述の分析を裏付けるものです【グラフ-10】。

県内の地域ごとの状況を見ると遠く利根川最下流から房総導水路を經由して受水している九十九里地域、さらに南房総導水路も經由して受水している南房総地域等では、半島という地形や人口密度の低さもあり、投資的経費に係るコストがさらに高くなっています。

このように千葉県の水道事業体は、高額な受水費・投資的経費等により、厳しい経営を強いられています。特に九十九里、南房総地域等は、後発、遠距離のため都市部よりも重い負担となっています。

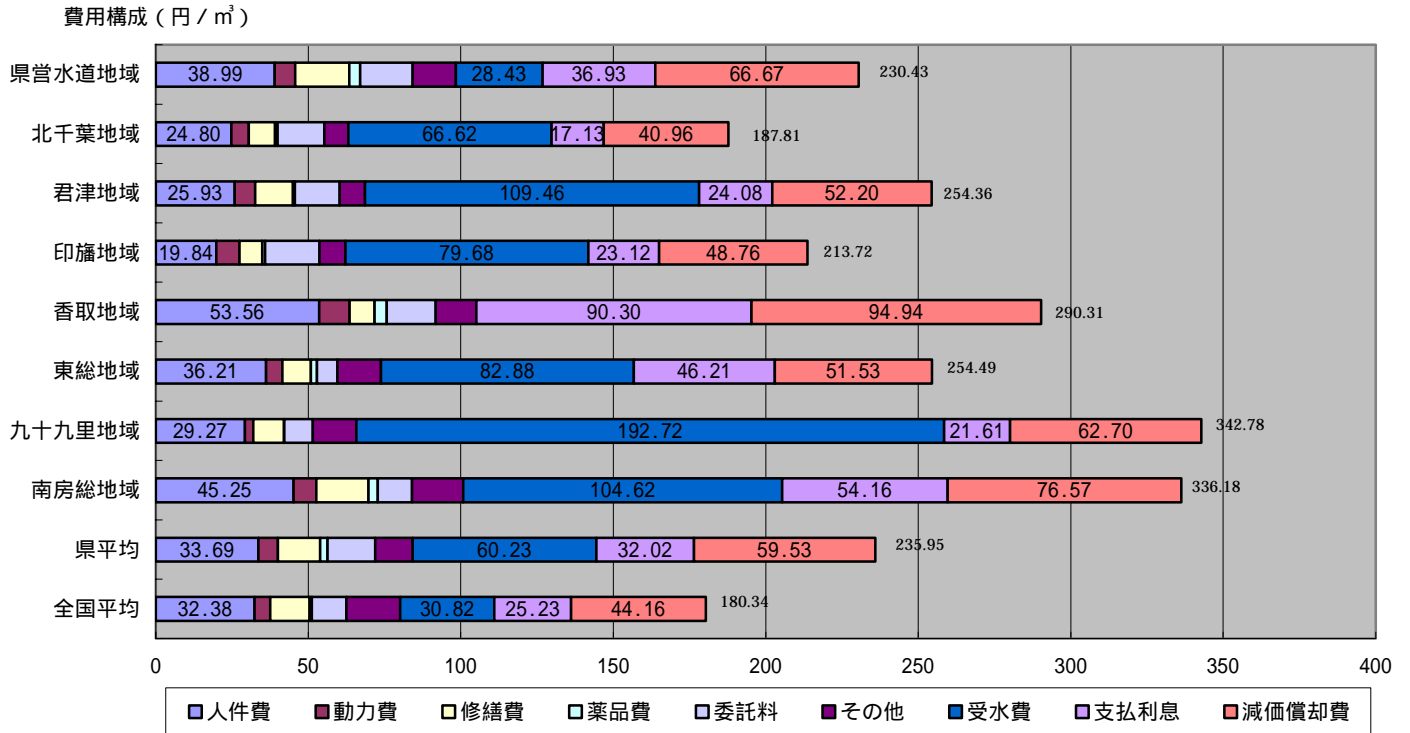
給水原価を県内地域別に見ると、最高は九十九里地域で342.78円/m<sup>3</sup>、最低は東葛飾地域で187.81円/m<sup>3</sup>となっており、都市部以外で高い傾向が見られ、特に九十九里地域・南房総地域が高くなっています。

給水原価中の受水費を県内地域別に見ると、県内では、水道用水供給事業体の存在しない香取地域を除いて、最高は九十九里地域で192.72円/m<sup>3</sup>（給水原価のうち56.2%）、最低は県営水道地域で28.43円/m<sup>3</sup>（給水原価のうち12.3%）となっています【グラフ - 9】。

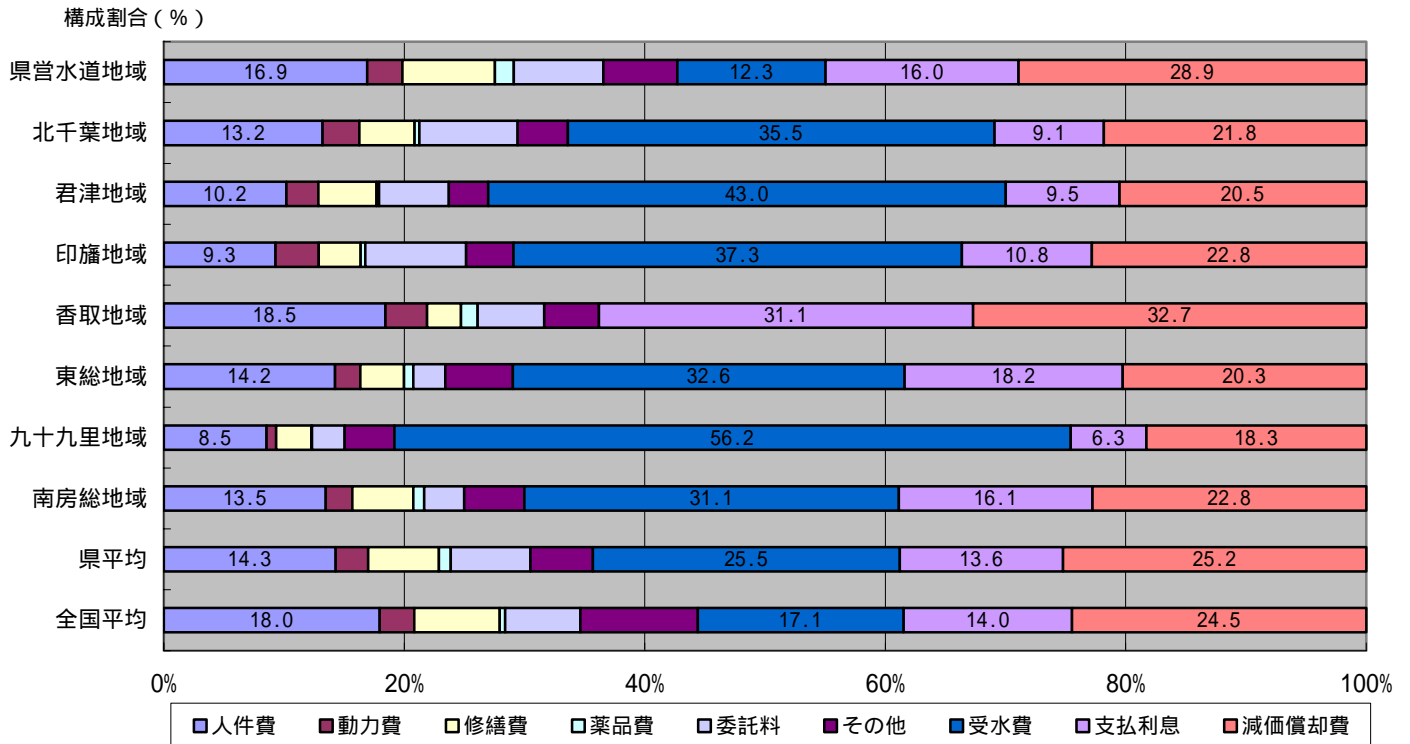
各水道事業体においては、建設改良費等の投資的経費の削減や人件費、修繕費、委託料等の経常的経費の節減等、事業体独自で経営改善のための様々な経営努力を行っているところですが、今後、各事業体における経営努力を有効に発揮させつつ経営基盤を強化していくことが重要な課題となっています。

【グラフ - 9】 水道事業体の給水原価の費用構成及び割合

県内8地域毎に水道事業体の給水原価の費用構成内訳を示したものです。どの地域においても受水費、減価償却費、支払利息に要する費用が大きい割合を占めていることが分かります。



\* 出典：「平成15年度公営企業決算統計（総務省）」より作成。

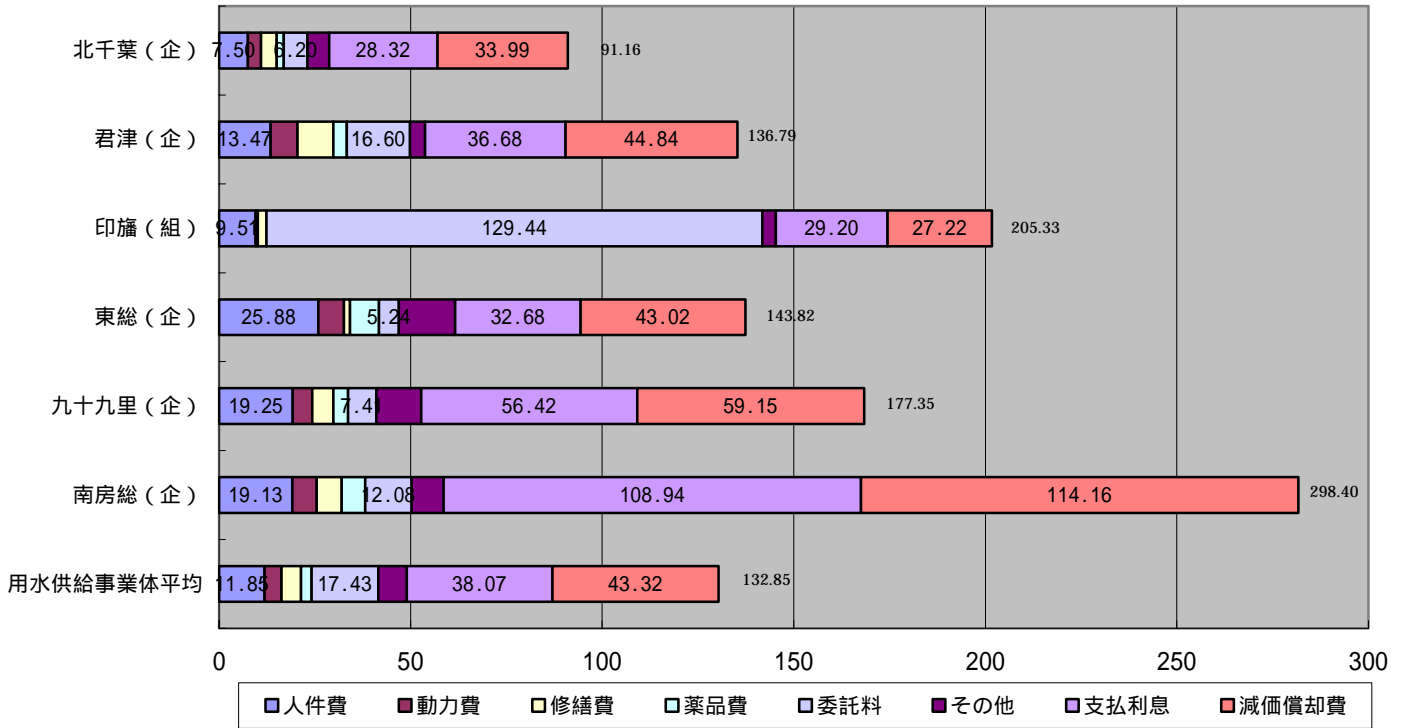


\* 出典：「平成15年度公営企業決算統計（総務省）」より作成。

【グラフ - 10】 水道用水供給事業体の給水原価の費用構成及び割合

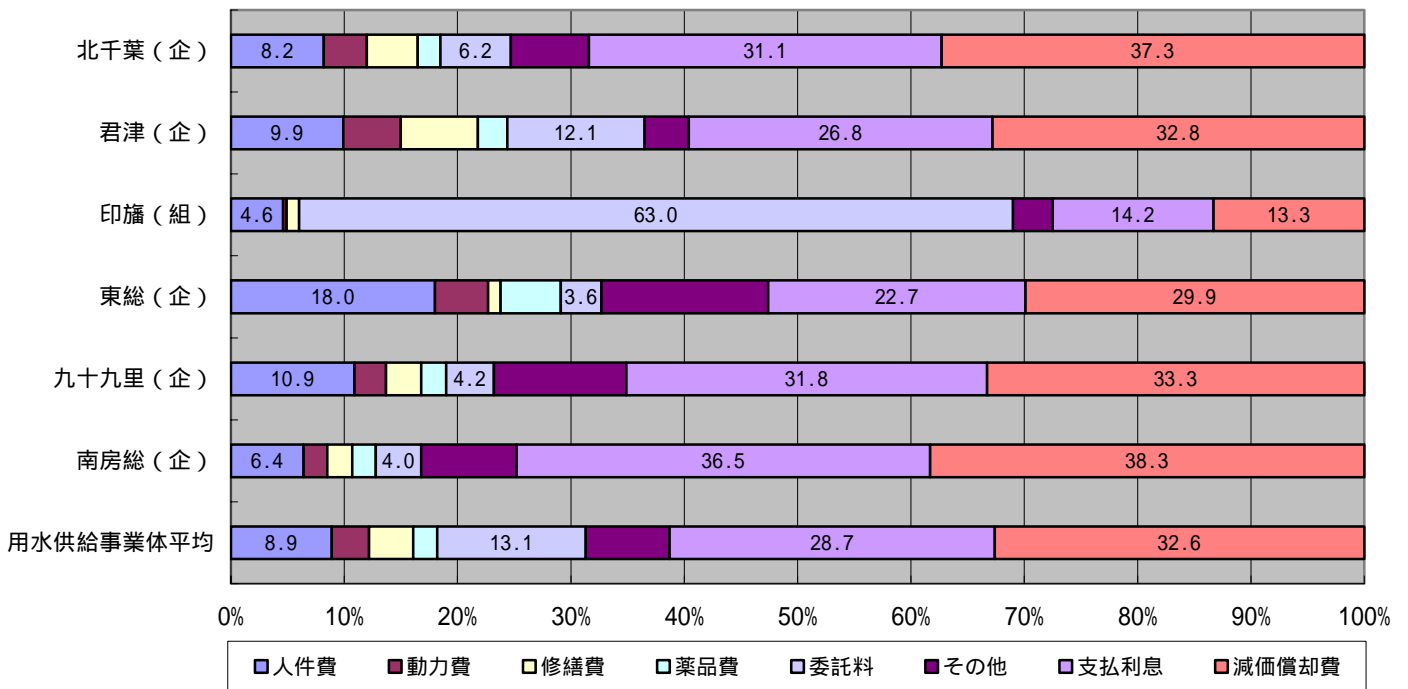
県内の水道用水供給水道事業体の給水原価の費用構成を示したものです。水源から遠い九十九里地域水道企業団、南房総広域水道企業団では減価償却費と支払利息が特に高くなっています。なお、県営水道に浄水加工委託をしている印旛郡市広域市町村圏事務組合では委託料が占める割合が一般の企業団に比べると大きくなっています。

費用構成 (円 / m<sup>3</sup>)



\* 出典：「平成15年度公営企業決算統計（総務省）」より作成。

構成割合 (%)



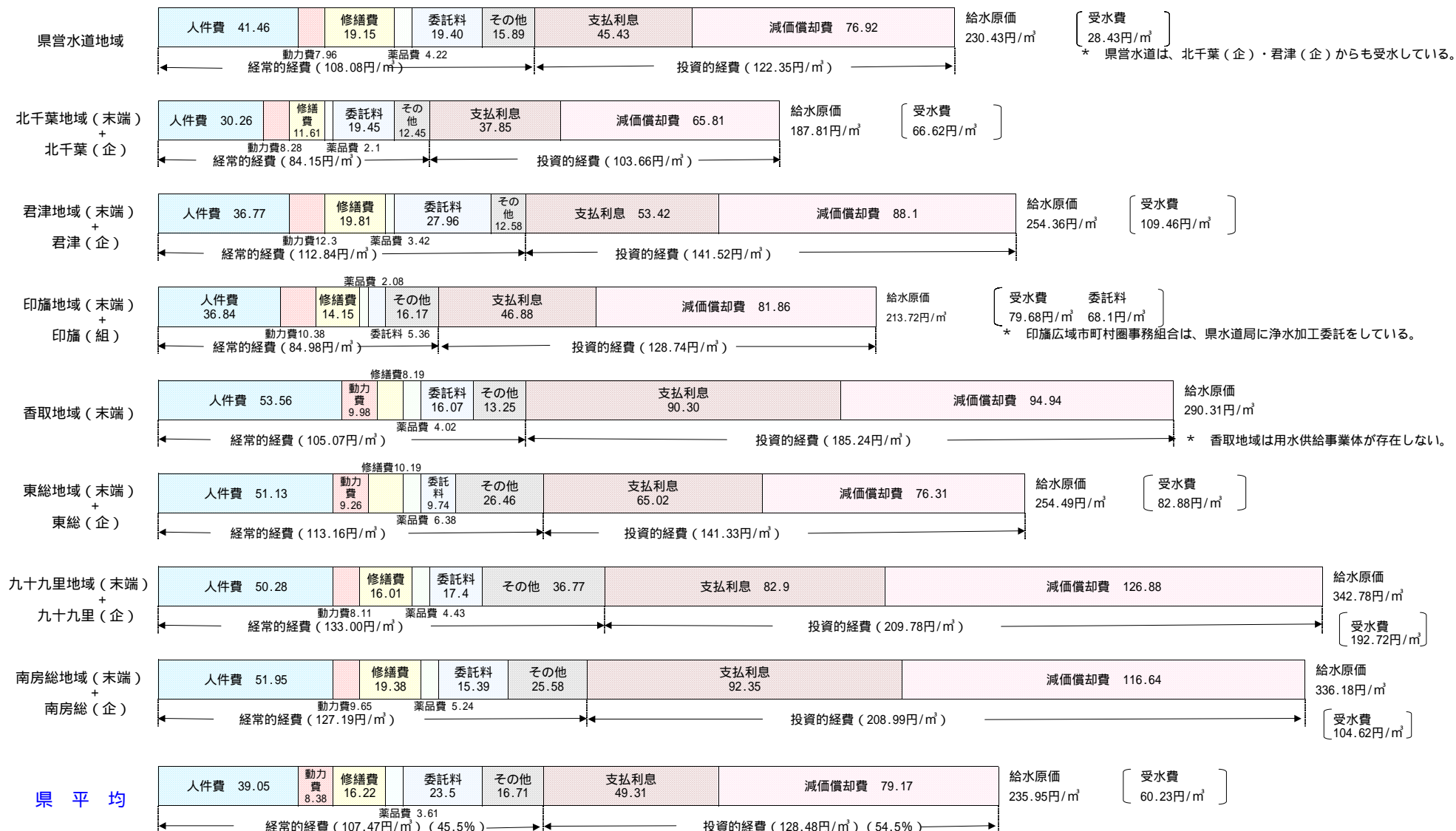
\* 出典：「平成15年度公営企業決算統計（総務省）」より作成。

【グラフ - 1 1】地域毎の給水原価の費用構成（水道事業体と水道用水供給事業体の合算）（円/㎥）

水道事業体と水道用水供給事業体を合わせた県内の8地域毎の給水原価の費用構成を示したものです。地域毎の水道事業体の給水原価のうち受水費を、水道用水供給事業体の給水原価の費用構成に基づいて分解し、費目毎に合算しています（水道用水供給事業体の給水原価と供給単価の差は捨象しました。また、水道用水供給事業体の存在しない香取地域は水道事業体だけの地域計としています。）。なお、県営水道の受水費については、北千葉広域水道企業団と君津広域水道企業団の有収水量で按分した上で合算しています。印旛郡市広域市町村圏事務組合は県営水道に浄水加工委託をしており、当該委託料については県営水道の給水原価の費用構成に基づいて分解し、費目毎に合算しています。

経常的経費と投資的経費にも分けて示していますが、どの地域においても経常的経費よりも投資的経費の方が割高になっています。

20



\* 「平成15年度公営企業決算統計」より作成。